

平成 23 年度 法科大学院（法務研究科）既修者認定試験

民事法（民法・商法）問題紙

B日程

平成 23 年 2 月 27 日

10 : 00 ~ 12 : 30 (150 分)

(220 点)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開いてはいけない。
2. 民事法の問題紙は 1 ページから 3 ページである。

科 目 名	ページ
民 法	1 ~ 2
商 法	3

3. 解答用紙は、3 枚である。解答用紙の追加は認めない。

科 目 名	枚数	配点
民 法	問題 1 と問題 2 の 2 枚	120 点
商 法	1 枚	100 点
合 計	3 枚	220 点

4. 解答用紙は 3 枚ともかならず提出すること。
5. 監督者の指示に従い、すべての解答用紙に受験番号と氏名を記入すること。
6. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
7. 試験終了まで退室してはいけない。

北 海 学 園 大 学

民 法

(配点 120 点)

問題 1 (配点 60 点)

(1) 30 点

Aは、知り合いの美術商Bから高名な画家の真作として甲油絵を買い受けた。契約締結時に、ABともに甲油絵を真作と信じ、真作の相場価格に見合う500万円と代金を定めて、Aは、代金500万円をBに支払い、甲油絵の引渡を受けた。Aは、甲油絵を書斎に飾っていたところ、隣家から出火し、Aの書斎に延焼し、甲油絵は焼失した。甲油絵の焼失についてAの帰責事由はないものとする。その後、甲油絵は、10万円の価値しかない模写であることが判明した。

Aは、甲油絵についての売買契約は錯誤に基づいて無効であるとして、Bに支払った代金500万円の返還を請求した。Aの請求は認められるか、また、Bは、Aに対していかなる主張をすることができるか。理由を付して答えなさい。なお、本問では、錯誤と瑕疵担保責任の関係を論ずる必要はないものとする。

(2) 30 点

A会社の従業員Bは、A会社の業務を遂行するためにA会社の営業車を運転し、前方不注意により横断歩道を歩行しているCと接触し、Cは道路に横転して頭部を強打した。Cは、救急車でD病院に運ばれたところ、D病院の担当医Eは、脳内検査をせず、触診・問診をして異常なしと判断してCを帰宅させた。その晩、Cは、D病院担当医Eの適切な検査治療がなされていれば救命できたにもかかわらず、事故を原因とする脳内出血により死亡した。なお、いずれの事故にもCおよびC側の過失はないものとする。

設例において、BEは、Cの死亡について共同不法行為責任を負うか、また、D病院がCの死亡により生じた損害全額を賠償した場合に、A会社に対していかなる割合で求償できるか。理由を付して答えなさい。

問題2 (配点 60 点)

売主の担保責任に関する次の問いに答えなさい。(1)と(2)は、それぞれ独立した問題である。

(1) 30 点

300平方メートル程度の土地を買いだいたい思っていたBは、適当な更地をみつけた。その土地の登記簿を閲覧し、これがA所有であり、面積が300平方メートルであることを確認した。BはAと交渉して、代金を1平方メートルあたり50万円とすることに合意し、1500万円で売買契約が成立した。しかし、あとで測量してみたら270平方メートルしかなかった。Bは契約を解除したり、不足分の150万円を返してもらおうことができるか。

(2) 30 点

平成10年にA所有の土地とその地上建物を購入してその引渡を受けたBは、平成22年にその建物を増築する計画をたてた。ところがその土地の一部が、平成9年に、道路用地の指定がなされており、増築ができないことがわかった。BはAに対する損害賠償請求をしたいのだが、その損害賠償請求の根拠を示すととも、その期間制限について説明しなさい。

商 法

(配点 100 点)

新株の発行に際し、従来の株主のどのような利益が、どのように守られているかを、
(1) 公開会社、(2) 公開会社でない会社のそれぞれについて述べなさい。
(解答に当たっては、従来の株主を旧株主、公開会社でない会社を非公開会社と表示してよい)